

呼び名

子どもが生まれたとき、自分たちのことをどう呼ばせるか、妻と話し合った。お互い自分たちの両親を“おとうちゃん”、“おかあちゃん”と呼んでいたのですが、子どもが覚えやすく発音しやすい“パパ”と“ママ”で落ち着いた。不思議なことに、それから私たちは、お互いのことを“パパ”、“ママ”と呼び合うようになった。

ある先生にその話をしたら、「家族の呼称は、常に一番年少の子どもを起点に定められる」と教えてくれた。なるほど、次女が生まれてからは、長女は“おねえちゃん”に変わった。私達の両親も自分たちのことを“おじいちゃん”、“おばあちゃん”と呼ぶようになった。「猫可愛がり」をもじった「孫可愛がり」という言葉があるが、本当に目に入れても痛くないほどに溺愛してくれた。

年少のものを慈しむ文化がこの国にはあるのだと、その先生の話聞いて誇らしく思った。

